

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0174700898, 株式会社アルムシステム, グループホーム東めむろふれあい館1・2, 河西郡芽室町東めむろ3条北1丁目8-4, 令和4年12月1日, 令和5年2月10日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174700898-00&ServiceCd=320&Type=search

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、入居者様が穏やかに安らぎのある暮らし、一緒に笑いあえる生活を大切にぬくもりのある暮らしを支えたいという思いで、ケアに努めています。自由な生活の中でも、個人のプライバシーは、尊重し入居者同士のがストレスを感じないような人間関係を作れるよう職員が仲介しています。毎年、ホーム外の畑を利用し、野菜の苗を植え、入居者様と共に野菜の収穫や調理を行い食卓を彩る。新型コロナウイルス感染拡大につき、利用者様、個々への支援(買い物・外食・行事等)においては、密接を避け、施設内での気分転換を図り対応しています。日々、心身状態の観察、管理を行い、医療やご家族との連携を図りながら、その都度、相談出来る体制づくりに努めている。この場所が、今の入居者様の居心地の良いところになるように日々、考え、努力しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ, 札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103, 令和5年1月17日.

当事業所は自然環境に恵まれた閑静な住宅街にあり、母体法人が運営するシニアマンション等が多く隣接する福祉施設のコミュニティを形成している。コロナ禍前は地域のお花見やお祭りに参加したり、シニアマンション等が共同で行う事業所の夏祭りに地域住民を招待し交流を深めていたが、現在は自粛によりお互いの参加ができない状態にある。コロナ禍でも利用者の生活が単調にならないように事業所内の飾りやイベント、食事等に工夫を凝らしている。定期的な往診や訪問看護により体調の管理を行っている。重度化・終末期の支援については、本人や家族の思いを受けながら看取りまでの支援をしている。職員間では日頃からケアに対する情報を共有し、利用者の支援に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営理念、運営方針は、ホーム内に提示し、会議等で職員それぞれが自身を振り返り理念や目標の実践を確認しています。 | 職員会議等で事業所独自の理念をつくり、廊下や事務室に掲示し、職員全員で確認し合い、共有化を図りながら日々のケア実践につなげている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | コロナ感染防止の為、面会制限となり恒例の当施設の行事もできない状況であり参加協力のご案内も控えている。 | 以前は地域のお祭り等に参加していたが、現在はコロナ禍で地域交流を自粛している。利用者が外出の際等に地域住民から声掛けされるなど地域と繋がりがながら生活している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 前年同様、運営推進会議での書面ではあるが、認知症理解やホームでの取り組みを報告している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、コロナ禍のため書面会議となっており、開催できていませんが、現場の状況を議事録として残し、お便りにて家族に報告、疑問点は、会議で話し合いサービス向上に取り組んでいる。 | 運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、地域代表、家族等が出席して、年6回開催していたが、コロナ禍により書面会議として、事業所の現状報告や活動内容等を報告している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 当施設での運営上の疑問点や問題点などは、町職員に報告、相談し適切なアドバイスをして頂き協力関係である。GHの活動内容や取り組みを知って頂き、サービスの向上に活かしている。また、空室状況を共有し随時対応している。 | 町担当者とは、空室状況の報告や生活保護受給者との面談、介護認定等の申請や相談については電話やメール、書面等で連絡を取り合っている。状況に応じて相談等の協力関係を築いている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止推進委員会を設置。コロナ禍で活動は出来ていないが、毎月身体拘束適正化事例検証を行い意識を高めている。また、夜間のみ玄関は施錠し、日中は自由に出入りできる環境にし、不穏時には、寄り添い落ち着かせる対応を行っている。 | 「身体拘束適正化事例検証」では毎月職員から参考事例を出してもらい、身体拘束の弊害や 具体的禁止行為、不適切な言動について学び意識の向上に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止委員会を設置。コロナ禍で活動は、出来ていないが、資料による職員との情報共有、日々の生活の中でも注意を払い、ケアの統一を計ることで虐待防止に努めている。 | | |

グループホーム東めむろふれあい館1・2(東めむろふれあい館1)

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在2名の方が成年後見人対象者です。後見人とは、随時連絡を取り合い、状況を等把握、職員に周知して対応しています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約については、事前に利用者及び家族に閲覧して頂き、契約時に説明し、質問を聞き確認してから契約を行う。解約時は、次の生活の場所を相談支援を行っている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口を定め、意見箱を設置している。面会や面談時に家族からの意見、要望を収集職員に周知入居者もいつでも職員に対して要望が表出できるように傾聴し毎月のお便りにて家族に日々の様子をお知らせしています。 | 日常の支援の中で利用者の意向や要望を聞いている。家族からは面会の機会が少ないため、便りや電話等で利用者の様子を知らせた際に、意見や要望を聞き、職員間で共有し、運営に反映させている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 申し送りや会議で職員の意見や提案を聞く場を設け話し合い、上層部に向けて組織体制をつくっている。 | 管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、職員の日々の気づきや思いを尊重し、会議等で意見や要望を汲みあげ運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 会社の就業規則に定めている職員の評価を行い、実績、勤務状況を把握反映している。管理者は、職員と随時面談で目標ややりがいの有無を確認し、意欲向上出来るよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社内、社外研修を実践し、全職員が受けれる機会を設けてきたが、現時点では、コロナ禍の為、ホーム内研修のみとなっている。毎月の会議を通じて情報共有しケアの向上に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 十勝グループホーム協議会に加入し研修参加で学ぶ機会を設けている。管理者は、地域の病院相談員やケアマネージャーとも連携して、交流の場をもちサービスの向上に反映させている。 | | |

グループホーム東めむろふれあい館1・2(東めむろふれあい館1)

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前に施設見学や面談を行い、ご本人の不安を取り除き要望等を聞き満足し、希望された時点で入居をして頂くよう努めている。面談時の情報は、スタッフに周知することで適切なケアが行えるよう努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居に至るまでのご家族の不安や要望をお聞きし、サービスに繋げ、サービス内容を説明し、要望等に対して出来るだけ満足、信頼して頂けるよう努力し、より良い関係作りが出来るよう努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービス利用開始前に本人及び家族の生活歴、主治医各関係機関の情報や意見を参考にし、アセスメントにより支援するサービス内容を把握し、必要とする支援を検証し、より良いサービスに繋がるよう努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 毎月サービスの内容を評価し、可能な限りご本人のペースに添って出来ることをして頂いている。支援が必要なことを把握、サポートし安心した生活を送って頂けるよう信頼関係作りを努めている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族がこれまで抱えてきた介護に対する思いを受け止め、本人と家族が今後も良好な関係を築いていけるよう支援している。月1回のおたよりやその都度、現状報告を行い、時には家族の協力を得てご本人のサポート出来る関係を築くよう努めている。面会時には、家族の思い、希望を聞き、ケアに反映出来るようにしている。 | | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人のこれまでの生活歴を傾聴、把握し、本人の希望に添えるようが外出支援や友人、知人の面会を行い、関係が途切れないよう支援している。(現在、面会制限中の為、電話等のお手伝いのみ) | コロナ禍により、家族や友人・知人の面会を自粛しているが、友人等の馴染みの関係継続の為に電話での対応や手紙の代筆などで支援している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の良好な関係を築く為、出来るだけリビングの生活を多くし、職員が見守りや利用者同士が顔を合わせられるよう仲介するなどお互いに支えあえる環境作りに努めている。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|--|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 22 | | <p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p> | <p>契約終了後も必要に応じ、面会や相談があれば情報を提供し、支援している。入院の場合は、訪問等を通じて相談、支援に努めている。</p> | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | 9 | <p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>日々の関わりの中で、その方の思いや希望を傾聴し把握に努めている。希望や意向には、できる限り添えるように努力させて頂いています。</p> | <p>利用者と日頃からの支援を通じて、表情や仕草等から思いや意向を把握し、得た情報を申し送り時や会議等を通じて職員全員に周知し共有化を図っている。</p> | | |
| 24 | | <p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> | <p>入居前のアセスメントや家族、本人から情報収集を行い、馴染みの家具や思い入れのある写真を飾るなど生活環境を整え、穏やかに本人らしい生活をおくることが出来るよう努めている。</p> | | | |
| 25 | | <p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p> | <p>毎日の心身の状況を把握し、24時間の記録用紙に記入、申し送りで職員間で情報共有、現状把握に努めている。その人の有する能力に変化があれば会議で討議している。</p> | | | |
| 26 | 10 | <p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p> | <p>日々の変化や行動を観察し、記録に記入し、本人の状況把握の共有に努めている。本人、家族の意見を聞きながら、毎月又は、特変時に職員全員ケアカンファレンスを行い課題検証を行いながら、現状に即した介護計画を作成している。</p> | <p>作成者は医療関係者、職員等から意見を聞き、利用者・家族から十分なアセスメントとモニタリングを繰り返しながら6ヶ月毎に介護計画を作成し、家族への説明と確認を得て署名押印をもらっている。体調変化時はその都度ケアプランの見直しを行っている。</p> | | |
| 27 | | <p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p> | <p>個別記録に日々の生活状況や体調変化等を記録し実践、取り組みなどスタッフ全員で共有して、介護及び介護計画の見直しに活かしている。</p> | | | |
| 28 | | <p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p> | <p>一人ひとりに合ったサービスの提供、家族、本人の要望等に応じ、柔軟に対応するよう心掛けている。家族との連絡を密にし、本人の希望に添えるような体制作りをしている。</p> | | | |
| 29 | | <p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>地域町内会に加入し、行事参加や防災訓練の参加等で地域住民の理解を得られるよう努力している。シニアマンションの住人が遊びに来られるような配慮をしているが、現在、外部の接触を規制しているため、なかなか協働できていない。</p> | | | |

グループホーム東めむろふれあい館1・2(東めむろふれあい館1)

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者の従来のかかりつけの医療機関での受診を基本に対応しているが本人や家族の希望、必要に応じて他科の受診も行っている。利用者の身体能力に合わせて往診に切り替えるなど対応している。(2週間ごとの訪問診療の利用)医療連携をしている医療機関と密な関係を築いている。 | 入居時に利用者、家族が希望するかかりつけ医を決めている。家族が受診同行を基本にしているが、車椅子など状況によっては職員も同行している。利用者の健康管理のために協力医が月2回往診している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の体調の変化を把握し、看護師に情報を提供し相談を受けている。夜間看護師への緊急体制も整え、看護師は、医療機関への情報を提供し適切な医療を受けられるよう支援している。(訪問看護) | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者との情報交換、訪問面談等を行い、受け入れ体制を整えている。退院に向けた体制づくりの為、病状説明の際には、職員も同席し、利用者が安心して治療に専念出来るように家族、病院関係者と密に情報交換し早期に退院出来るよう努めている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期のあり方については、本人、家族と話し合い、説明をし、方針を共有し可能な限り支援に取り組むよう努めている。嚥下障害、入院や体調の変化があれば、その都度家族と様子を確認しながら今後の対応について相談している。 | 「重度化した場合における対応指針」や「看取りに対する対応」について入居時に利用者及び家族の同意を得ている。利用者の体調変化に応じた対応を訪問看護師や協力医、利用者及び家族と事業所で話あっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変時及び事故発生時の応急手当等は、社内研修等において関係機関による実践訓練の実施を随時行っている。又、本人の状態に合わせて食事や移動方法等工夫し事故がないよう努めている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防火・防災対策要綱を設置し法人全体で対策を行っている。年に2回消防署の協力により、通報や初期消火、誘導等の避難訓練を利用者と一緒に行っている。その際、地域住民への参加の呼びかけも行っているが今年、地域住民への参加の呼びかけは、自粛している。 | 消防署の指導の下、年2回の避難訓練を行っているが、コロナ禍で地域住民の協力を得ない訓練を実施している。「防火・防災対策要綱」を作成し法人全体で災害対策を行っている。備蓄の見直しを行いながら、今後の災害にも備えている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 記録の取り扱いは、本人のプライバシーに配慮して取り扱っている。1人ひとりの人格を尊重し、言葉使いには、十分に気を付け、その人が理解できる言葉を使い対応している。又、入浴や排泄、更衣時には、特に注意を払い、希望があれば同性介助も行っている。守秘義務については、スタッフ会議で周知が図られている。 | 個人情報等の研修会を行い人格を尊重する対応の理解を深めている。入浴や排泄等本人のプライバシーに配慮し、本人の希望に沿った支援をしている。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者が決める力や希望などが気兼ねなく発言出来るよう、働きかけその都度、聞き出し対応している。特に表情や全身の反応を観察している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している | 施設の毎日の流れを優先することなく希望に添った、1人ひとりのペースを日常の会話の中から聞き出し、支援に努め、個々に合わせた起床時間や食事の好み等出来るだけの対応を行い、入浴も気分によっては、入浴日を変更し対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 出張美容により理美容を行っている。又、身だしなみについては、洋服を自分で選択してもらい、汚れた服などはすぐに着替える。髭剃りを丁寧にするなどこまめに整容を行っている。化粧品を用意することもある。衣替えは、職員その他、ご家族にも協力して頂いている。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 週に1度は、日常生活の中で希望を聞き、喜んで頂けるような献立を考え、盛り付け等も工夫している。食事の準備、片付け等も個々の能力に合わせて職員と一緒にやっている。 | 利用者の能力に応じて職員と一緒に食事作りや配膳の手伝いをしたり、準備や片付けと一緒にしている。畑でできた野菜と一緒に取りに行き食材に使用している。行事食など食事が楽しめる支援をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の摂取量を記録したり、水分摂取がすすまない方には、飲み物を工夫し量の確保に努めている。個々の食事形態、量を把握し調整している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | こうぐうは、毎食後促したり、個々の能力に合わせて支援している。夜間は、義歯消毒を行っている。訪問歯科も利用している。 | | |

グループホーム東めむろふれあい館1・2(東めむろふれあい館1)

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄パターンを把握し、表情や行動の観察に努め、トイレでの排泄が行えるように支援している。リハビリパンツ、パット等も状態に合わせて使い分けをしながら支援している。 | 各人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。把握が困難な利用者には表情や態度、習慣などに配慮して適時、声掛けしている。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘にならないように水分量や活動量を確保し個々に応じた便秘予防と対応を行っている。必要に応じて主治医と連携を図り、個々に合った対応を行っている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個々の清潔の保持の為、週2・3回の入浴、又希望に添った対応を心掛けている。入浴が楽しい時間になるようコミュニケーションを図りながら支援している。 | 週2～3回利用者の希望に合わせた入浴の支援をしている。入浴を拒否する利用者には言葉かけのタイミングや職員を替えるなど無理のない入浴支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活習慣を把握し、又その日の体調等に応じて休息したり、昼寝をして頂いている。夜間も照明や室温に配慮して安眠出来るよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬状態は、ファイルに保管し、確認できるようにしている。医師や薬剤師に日常の情報提供をしながら服薬調整している。日常生活の把握に努め、症状の変化、気づきを見逃さないよう留意している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居前の生活歴を把握し、その人らしい生活が出来よう支援している。出来ること、出来ないことを把握し、自らが出来るように支援している。季節の行事を大切に提供している。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者様の希望に応じて日々のさんぽや買い物等を行っている。行事計画を作成し、四季を感じられるような日帰り旅行(ドライブ・花見)等も行っている。各家族との協力により、家族との外食や外泊等の外出支援も行っている。現在、コロナ禍による感染予防にて外出制限、定期通院以外は、できていない現状である。 | コロナ禍以前は利用者の体調に合わせ散歩や買い物、ドライブなどの外出支援をしていたが、現在は外出自粛の為、通院以外外出していない。 | コロナ禍で外出支援が制限され戸外に出る機会がなくなっている。利用者が気分転換でき、生き生きと過ごせるような支援を期待したい。 |

グループホーム東めむろふれあい館1・2(東めむろふれあい館1)

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理できる利用者様は、一部所持している方もいる。使用した際にお小遣い帳に記録し、毎月レシートと一緒に報告している。本人の希望品(お菓子や化粧品、衣服)を買えるよう購入支援しており、使う事の楽しみを感じて頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯を所持している方もいる。家族や友人からの電話は本人が話せるよう支援している。又本人から掛けたいと希望があれば支援している。限度を超えるような通話時間や掛ける時間帯などによって声掛けやアドバイスすることもある。手紙のやり取りも希望があれば支援している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間には、その月々の行事にまつわる掲示物や飾りをして季節を感じられるよう工夫している。テレビを複数設置し、リビングソファも動線や対人関係を考慮して配置を変えるなど工夫している。エアコンによる温度管理で過ごしやすい居心地の良い共同空間づくりに努めている。 | 廊下や居間には季節に合わせた塗り絵や飾りつけがあり居心地よい穏やかな雰囲気づくりを工夫している。コロナ禍の為に定期的な換気やアルコール消毒をしながら安心して暮らせるよう支援している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングにはいつも利用者が集まり、会話を楽しめるよう支援している。座れる場所が沢山あるので共用空間で1人にもなれたり他者と会話したりと思い思いに過ごせるよう工夫している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際には、長年親しんだ愛着のある家具や洋服などを持ってきてもらい、個人個人の生活に合わせたお部屋作りを心掛けている。家族の写真や思い出の品を飾り、今までの環境を保ち、心地よく過ごせる工夫をしている。 | 入居時に慣れ親しんだダンスやテーブル、家具等を持ち込み、思い出の写真や手作り作品、花などの写真を飾って、落ち着いて居心地よく過ごせるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自立した死活が出来るように環境作りを行っている。居室が分かるように表札や目印の飾りを付け、動線を考慮し、安全に動けるように手すりを設置している。 | | |